

アメリカ留学 持続可能な農業を求めて

1. 活動時期

2025年7月26日～8月14日

2. 利用した旅行会社

なし(個人手配)

高校1年

古河崎 俊太

3. 活動の概要

私は、ポートランド州立大学(以下PSU)のサマープログラム English Conversation and SDGs High School Programに参加しました。午前は大学で持続可能な社会と農業について学び、午後はフードバンクでボランティアをしたり、企業を訪れたりといったアクティビティを行いました。また、休日にはホストファミリーと一緒に、持続な農業を行っている5つの農場を訪れました。

4. 感想

私の留学は飛行機の遅れにより、1時間以内に入国検査と乗り換えを済ませなければならないというハプニングから始まりました。そのため、はじめは1人でやっていけるかという不安もありましたが、ホストファミリーや先生をはじめ、多くの素晴らしい人の出会いに恵まれ、充実した20日間を過ごすことができました。

PSUのサマープログラムで特に印象に残っているのは、フードバンクでのボランティア活動です。冷凍パスタを袋に詰めるところから、ラベルを貼り出荷するところまでを初めて会う人たちと協力して行いました。先生曰く、アメリカの高校生は4年間で100時間以上ボランティア活動をしなければならないそうです(地域によって差はあると思います)。慈善活動を強制することには賛否両論あると思いますが、若い頃から社会に貢献することが当たり前になっていることに私は驚きました。

また、アメリカの農場を訪れるとき農場の活動が多岐に渡っており、農場がただの食べ物を収穫する場ではなく地域の人のコミュニティにもなっていると感じました。

フードバンクでも、農場でも人ととのつながりが持続可能な社会を実現する鍵となっていると感じました。世界的に環境への配慮が求められている今、日本の農業を「環境に優しい」と「地域と人をつなぐ」の2つの意味で「持続可能」にしていくためにこれからも学び続けたいと思います。



フードバンクのロゴ



ワイン用のブドウ農園

5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

留学の醍醐味は、未知の場所で自分の興味を思いきり追求できることにあると思います。せっかくの機会を「最高だった」と言えるようにするために、出発前にはしっかりと計画を立て、ホストファミリーや受け入れ機関とこまめに連絡を取り、万全の準備をしてください。そして、留学中はどんな経験も思いきり楽しんでください！

"Up to you"

これは、私がホストブラザーに言われ続けた言葉です。自分のことは自分で責任を持ち、自信を持って行動すれば悔いのない結果になるはずです。応援しています！